

もっとうい明日へ
超えてく

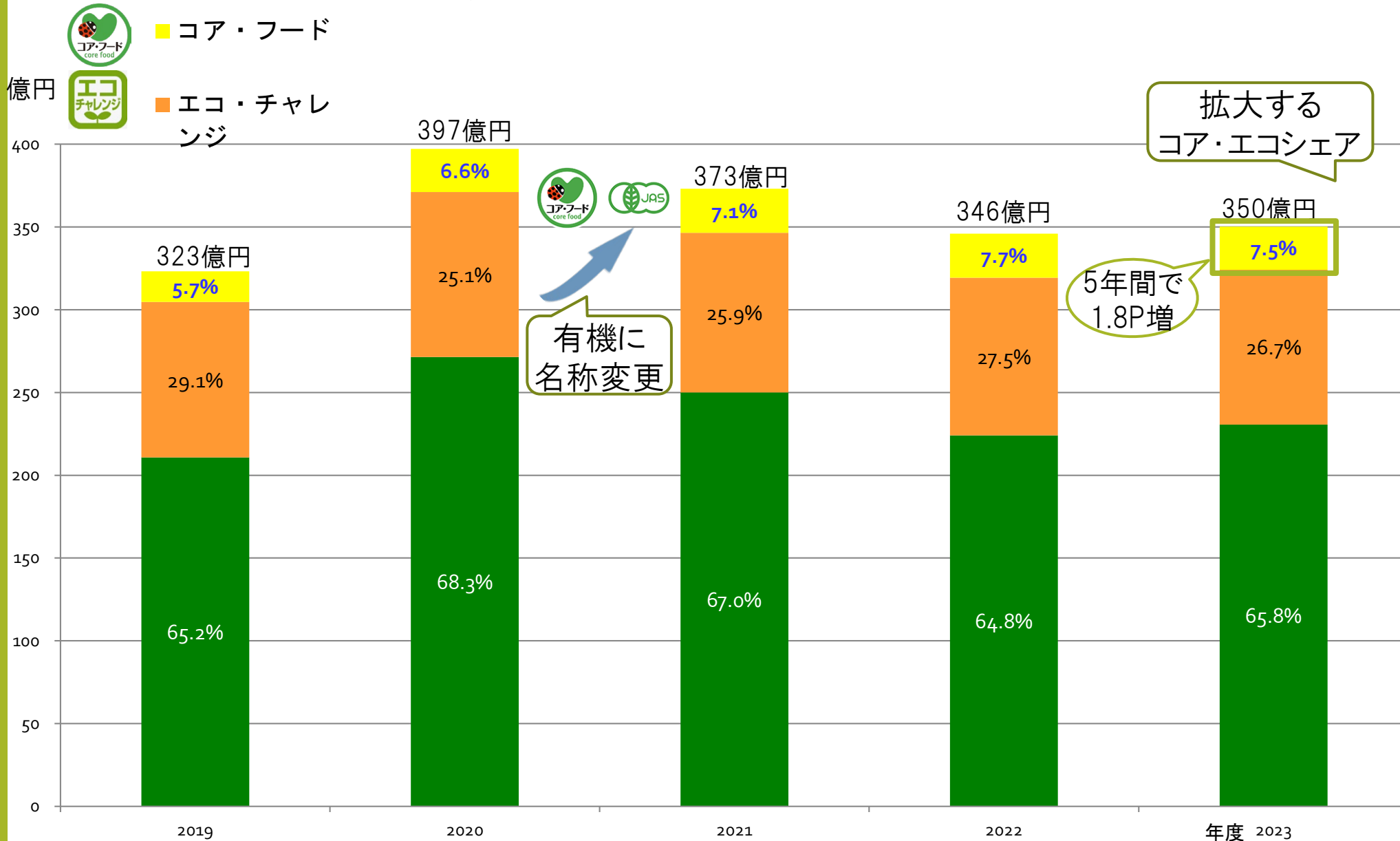
田んぼの生き物調査 有機栽培と生物多様性



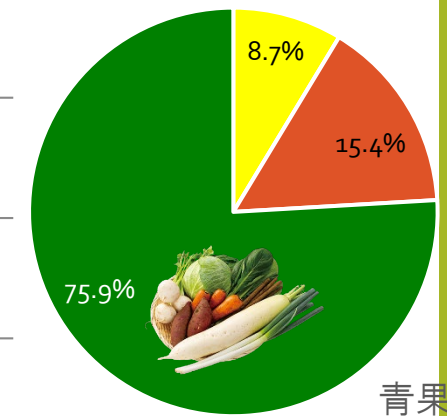
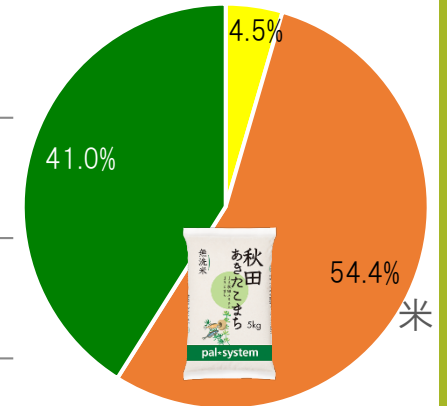
2024年7月2日

パルシステム生活協同組合連合会
産直事業本部 第1産直部 那須豊

コア・フード、エコ・チャレンジの米・青果売上内訳



栽培基準別実績比率



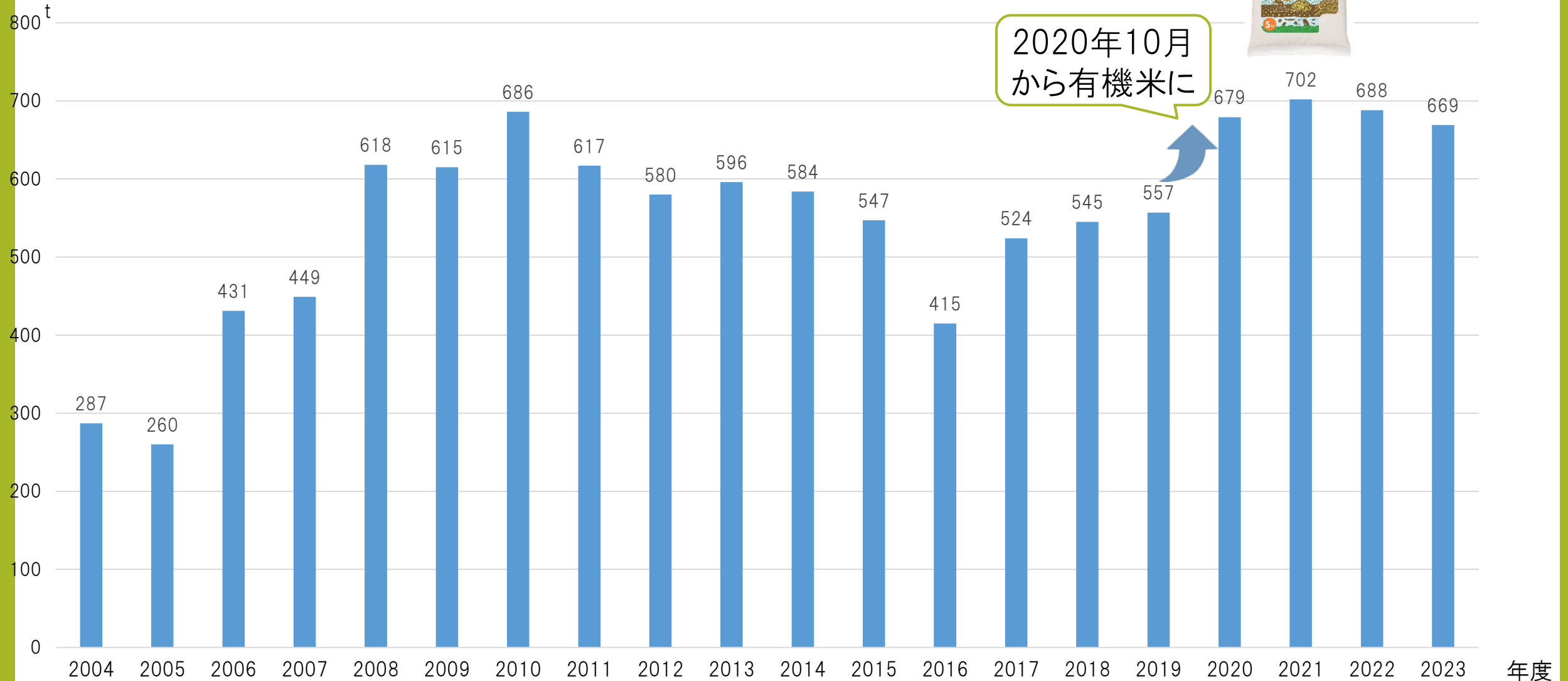
生きもの調査結果報告（4産地平均）

- ・今回で2年目の取り組みとなります。どの産地も有機の田んぼは、生きものの多様性がある事は確認できました。アイガモ栽培については、田んぼ内の生きものは少ないが、周囲（畦畔）にて生き物が見つかり、多く確認できました。



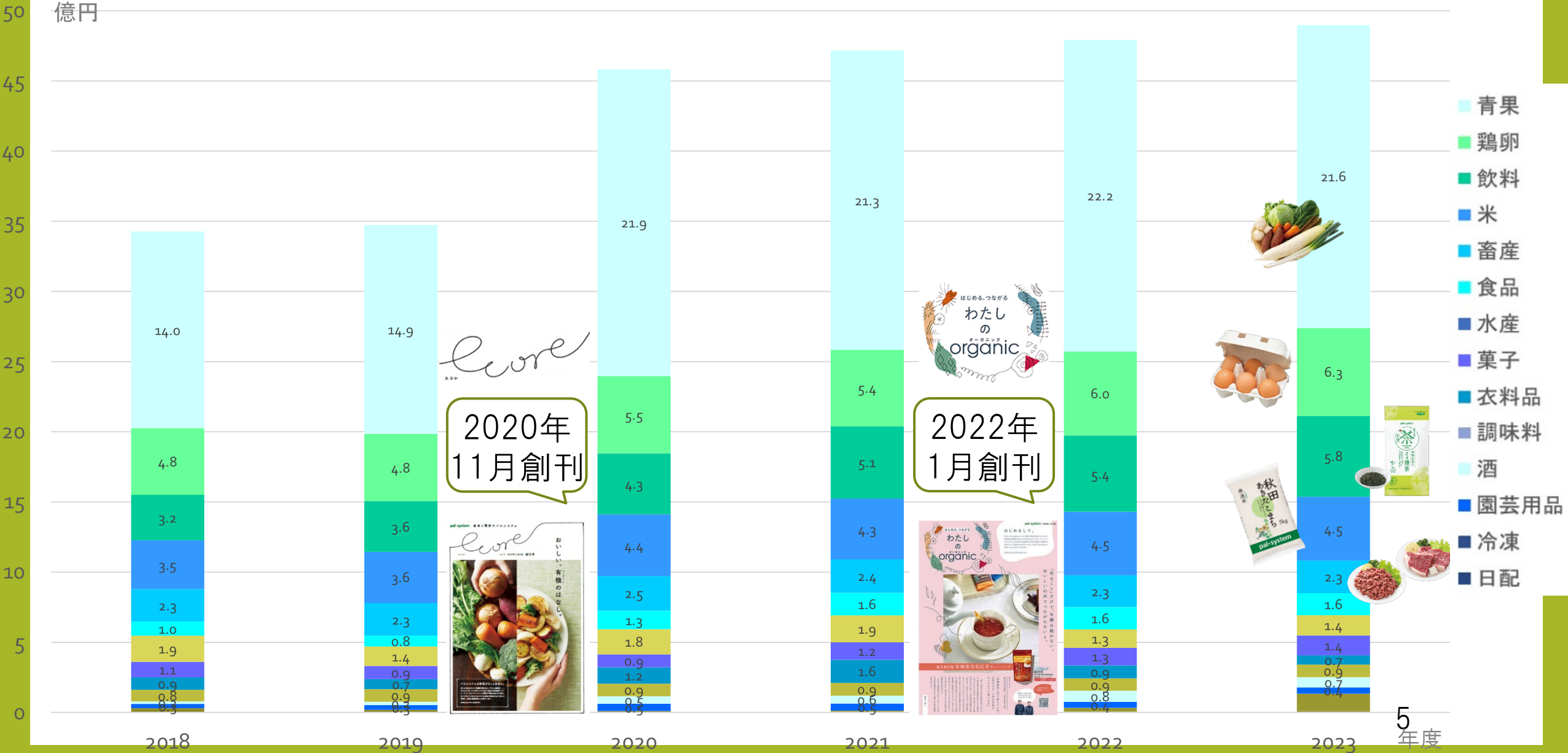
栽培基準	見つけた生きものの数
有機（コア・フード）栽培	20種類
エコ・チャレンジ栽培	18種類
慣行（一般栽培）	15種類

コア・フード米販売重量推移



※2016年度は2015年度の不適合肥料問題でコア・フード基準の取り扱いが減少

オーガニックへの関心と需要増



産地で見つけた主な生きものたち

産地名	見つけた主な生きもの
JA新潟かがやき（新潟県）	アカネ系ヤゴ・イトトンボ類・コモリグモ類・イナゴ幼虫・イトミミズ・ミジンコ類・カイエビ・ヒメゲンゴロウ・カワニナ・タニシ類・アマガエル
庄内産直ネットワーク(山形県) ・JA庄内たがわ ・庄内協同ファーム	アカネ系ヤゴ・コモリグモ類・イナゴ幼虫・タニシ類・イトミミズ・ミジンコ・ドジョウ・アマガエル・ゲンゴロウ類・ミズカマキリ・アイガモシマヘビ
JA新みやぎ（宮城県）	アカネ系ヤゴ・ヒラタアブ・コモリグモ類・アシナガグモ類・イナゴ幼虫・タニシ類・イトミミズ・ユスリカ幼虫・ミジンコ・小型ガムシ類・モツゴ・ドジョウ・アマガエル
オーリア21（秋田県）	アカネ系ヤゴ・ヒラタアブ・ミツバチ・コモリグモ類・バッタ類・ドブシジミ・タニシ類・ミジンコ類・アミ類・ガムシ類・ゲンゴロウ類・モツゴ・アマガエル・トノサマガエル・アイガモ



左から
アカハライモリの幼生体
フタバカゲロウの幼虫
アカネ系ヤゴ・カイエビ
シマヘビ

まとめ

- 栽培基準ごとの調査は2年目になります。結果は以下の通り。
 1. 有機栽培の田んぼは一番多くの種類の生きものを見つける事が出来ました。（昨年と同様の結果でした）
 2. イトミミズやミジンコなどは、有機栽培の田んぼが一番多く見つける事ができました。今後、土づくりとの関係性も調査していきます。
 3. エコ・チャレンジ栽培・慣行栽培の田んぼでは、生きものの量が偏る傾向がありました。（昨年と同様の結果でした）
 4. 2年目の取り組みですが、昨年と同様の結果がでました。次年度も引き続き調査し、データの蓄積と、米づくりと生物多様性の関係性をさらに調査していきます。

生きもの調査結果報告（JAささかみ）

- ・ 田んぼの中でわき（硫化水素など）が発生している場合は、生きものの量が減る事が確認できました。栽培管理レベルの発見数の差が顕著に出た結果となりました。



栽培基準	見つけた生きものの数
有機（コア・フード）栽培	23種類
エコ・チャレンジ栽培	20種類
慣行（一般栽培）	13種類

生きもの調査結果報告（オーリア21）

- 有機の田んぼは、アイガモ農法です。4haに250匹という数ながら、アイガモを確認出来ない位広い面積でした。田んぼ内の生きものは小型の生きものが多く見つかり、他の田んぼのような大きさの生きものは食べられている事が予想された。



栽培基準	見つけた生きものの数
有機（コア・フード）栽培	22種類
エコ・チャレンジ栽培	21種類
慣行（一般栽培）	18種類

生きもの調査結果報告（JA新みやぎ）

- ・昨年同様に近い結果となった。有機の田んぼは、昨年に引き続き生物多様性が豊かである事も確認できた。



栽培基準	見つけた生きものの数
有機（コア・フード）栽培	20種類
エコ・チャレンジ栽培	17種類
慣行（一般栽培）	14種類

生きもの調査結果報告（庄内産直ネットワーク）

- 今年度より、調査開始を行った産地です。JA庄内たがわのアイガモの田んぼは、カモたちが目に付く生きものを食べているせいか、他の有機の圃場よりは生き物数が少なかったのが特徴でした。



栽培基準	見つけた生きものの数
有機（コア・フード、アイガモ）栽培JA庄内たがわ	12種類
有機（コア・フード）栽培庄内協同ファーム	21種類
エコ・チャレンジ栽培	13種類
慣行（一般栽培）	15種類